

AKITA JC news

2015 年度 スローガン

揺るぎない根太いあきたの実現へ
～壮大な夢を語れる存在であれ！～



新年例会式典
伊藤理事長所信表明



撮影 1月28日 於 秋田キャッスルホテル

初詣を終えて

専務理事 鈴木 亮



2015年1月3日(土)に毎年恒例となりました、公益社団法人秋田青年会議所、初詣を彌高神社にて行いました。本年度の全てのJC運動、活動が成功する事と全メンバーの健勝と幸せを理事会構成メンバーでお祈りし、伊藤理事長体制のスタートを無事にきる事が出来ました。

初詣後は伊藤理事長のご自宅にて、理事新年会を行わせていただきました。これからの事業展開や事業方針など色々な事について活発に意見を言いながらお酒を酌み交わしました。新体制の【絆】が新年から強く築けたと感じました。伊藤理事長のご家族の方々には大変お世話になりました。本当にありがとうございました。

本年は「揺るぎない根太い秋田の実現へ～壮大な夢を語れる存在であれ!～」をスローガンにメンバー総数107名で丸となりJC運動、活動に邁進して参ります。1年間、どうぞ宜しくお願いいたします。

2015年通常総会を終えて

2014年度 総務交流委員会 運営幹事 田口 大

1月19日(月)にぎわい交流館AUにて2015年通常総会が行われました。本総会では2014年度の事業報告、決算報告、監査報告及び2015年度予算承認、理事、監事の選任について無事にすべて滞りなく満場一致で承認をいただくことができました。

総務交流委員会として行う最後の事業でしたので、無事に終わることができたという気持ちでメンバー全員充実した時間を共有することができました。

私自身も2015年度理事として活動することもあり、承認をいただいたことで身が引き締まる思いでした。

2014年度という土台の上に、さらに強固な2015年度秋田JCを築いていけるようしっかり邁進していきたいと思っております。



新春を祝う会を終えて

常任理事 事務局長 根田絵美子



去る1月19日、無事2015年度の役員の承認を受け、2015年度体制がスタートいたしました。仮会員であったメンバーも正会員となり伊藤理事長を初めとする秋田青年会議所メンバー全員と新しい年を迎えた喜び、そして2015年度の活動・運動への意気込みを共有する時間を過ごすことができました。壮大な夢を語れる仲間達と共に泥臭くJC活動・運動に取り組んでまいりたいと思っております。ご参加いただいた皆様、本当にありがとうございました。

京都会議に参加して

あきたの未来選択委員会 委員長 根田達也

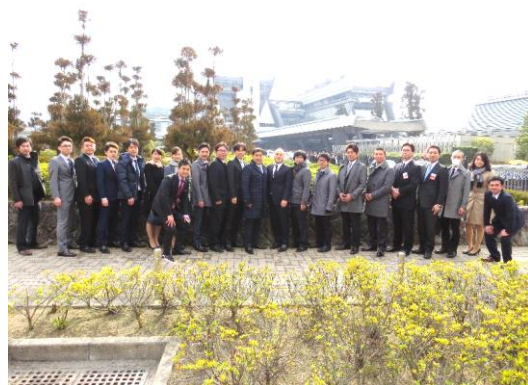
1月22日から25日に、京都国際会館にて京都会議が開催されました。

23日にオブザーブ参加させていただいた第1回理事会・第1回ブロック会長会議では、速やかな進行で数々の議案の審議を行い、緊張感と凛とした空気の漂う独特の雰囲気を経験させていただきました。同23日に開催された東北地区ナイトでは、来たる全国大会に向けて東北地区の各ブロックが決意を新たにし、絆を深める場となりました。

続く24日は各種フォーラム・セミナーが開催され、各々が研鑽を積む機会となりました。「日本の未来選択フォーラム」では趣向を凝らした演出を通じて、様々な知識を得られる構成で楽しみながら受講させていただきました。また、紹介された学生団体の取り組みには大きな感銘を受けました。

25日の新年式典では、柴田剛介会頭から2015年度の運動についての想いを直接聞き、また当LOMからの出向メンバーが活躍する姿をはじめ、全国の志を同じくする仲間がいる事の頼もしさを実感しJC運動に邁進していかなければならないと気持ちを新たにいたしました。

今回LOMメンバーの渉外を担当させていただき、不慣れな点も多くご不便をお掛けすることもありましたが、皆様のご協力を頂き無事に全行程を終了することが出来ました。本当にありがとうございました。



新年例会式典・祝賀会を終えて

【あきた力】活用委員会 運営幹事 渡邊 悠

去る1月28日(水)、秋田キャッスルホテルにおいて、公益社団法人秋田青年会議所の2015年度新年例会式典及び祝賀会が開催されました。

式典では、ご来賓、来訪JC、秋田JCシニアクラブ会員の皆様、そして秋田JCメンバーに向け、伊藤理事長の力強い挨拶とともに、根太いあきたの実現へ向けた展望と、壮大な夢への揺るぎない構想をお伝えいただきました。伊藤理事長の「他人の喜びも悲しみも分かる人間になれ」という信条は、私自身は勿論のこと、昨年生まれてきたわが子にも言い聞かせていこうと思います。また、秋田県企画振興部長 山田芳浩様、秋田市長 穂積志様をはじめとする多くのご来賓の皆様より激励のご祝辞を頂戴し、あきたへの愛郷心が深まる思いでした。その後の祝賀会では、終始和やかな雰囲気の中、ご来賓の皆様や先輩との親交を深めることができ、充実したひと時を過ごすことができました。



秋田JCに入会して初めての新年例会式典でしたが、LOMメンバーの皆様のご協力のおかげで無事盛会に終えることができました事を深く感謝申し上げます。結びに、昨年末の事前準備から当日の各役割分担を的確にこなしていただいた林委員長をはじめとする委員会メンバーの皆様、本当にありがとうございました。式典前日の夜中に、しっかりと足取りで歩いた雪道がいい思い出になりそうです。

所信

伊藤 久嗣

はじめに

あきたは、少子高齢化の加速と総人口の減少という、歴史的な一大転換期にあります。2020年には秋田県の人口が100万人を切り、2040年には秋田県の25市町村のうち大潟村を除くすべての自治体が人口構成で見ると存続が難しくなる予測がされています。また2050年には日本国自体の人口が1億を割ると予測され、我々にはかつて経験したことのない未来が待ち構えています。しかし、怯むことなく目の前の問題を乗り越えていかなくてはなりません。なぜならば、秋田青年会議所は戦後の荒廃に加え目的を喪失した人々が無力感から立ちあがるべく郷土の再建を担うため発足したからです。設立趣意書の中に、「私達は、益々同志的結合を固くし、友情を温め、相互の信頼と切磋琢磨により豊かな社会を創り出すために市民運動の先頭に立って進む」という一文があります。どんな時でも時代を牽引してきたのは、志高き青年会議所であったのです。先人たちが苦難を乗り越え、紡いできた歴史の上に私たちが存在しています。次は、私たちが未来を切り拓いていく時です。責任世代とは「未来を生きる世代の生存可能性に対して責任を負うこと」とするのならば、私たちはその使命を自覚し、我々の住み暮らす地域が明るい豊かな社会となる運動を行い、新しい日本の経済に貢献する必要があります。決して現実から目を背けず、決して揺るぐことのない根太いあきた実現に向け、今こそ我武者羅に汗をかいて、夢を語り、泥臭く取り組んで行こうではありませんか。

一、未来を語れるnetwork【絆】の育成

まちづくりには「若者・馬鹿者・よそ者」が必要であると言われる。私たちはもっと馬鹿になり、皆が笑ってしまうような壮大な夢を語り、率先して行動することに自信を持つことが、閉塞感を打破する一歩になると私は信じています。未来を語れる仲間が多く存在し、未来に対して多くの夢が出来たのならば、揺るぎない根太いあきた実現への近道になります。未来を語れる絆を育成して参ります。

二、未来へ責任ある選択を行う力の向上

地域に住み暮らす一人ひとりに国や地方自治の方向性を選択する権利が与えられています。民意を政治に反映することは、住み暮らす地域を具体的に明るい豊かな社会実現に進ませる有効手段であります。不偏不党の団体である我々青年会議所だから成し得る考え方、行動力を持って積極的に地域の政治・経済に関与し、頼られる存在になる必要があると考えます。また、地域住民一人ひとりが政治に関心を深め、傍観者になることなく未来へ責任ある選択を行うことを推進することで揺るぎない根太いあきた実現を目指して参ります。

三、守るべき歴史・文化の継承

公益社団法人秋田青年会議所は、2012年公益法人格を取得しました。その際、法人の目的である「明るい豊かな社会実現」を達すべき事業として環境に寄与する事業、青少年の健全な育成を目指す事業を定款に盛り込みました。その背景には、長きに渡り環境及び

青少年を対象にしたJC運動を続けてきたという事実があります。時代の状況により、取組む視点や運動は異なりますが、いつの時代も求められた不変の目的があったからだ実感しています。

住み暮らすあきたの風光明媚な環境は、誰しものが永続を願います。子供の笑顔、子供の育つ姿は誰しものが望み、地域に笑顔と活力を与えます。積み重ねた歴史を再認識し、過去の有効的な取り組みを昇華させ、永続的に展開することで根太いあきたを創り上げて参ります。

四、終わりなき市民社会資本構築

市民社会資本（ソーシャルキャピタル）とは、共通の目的を持った人と人のつながりが基盤となるまちづくりのことです。金銭的にも時間的にも大幅に縮減され、さらには安心安全なコミュニティの構築、郷土愛醸成にもつながるという考え方です。2011年にスタートした秋田醸しまつりも4年の月日が経ちました。多くの団体と協調し、信頼関係を構築した結果として、地域住民に十分に認知され、今では地域ブランドとして確立されるまでになりました。5年目を迎える本年度、確立した地域ブランドを永続的に輝かせるために、市民社会資本の考え方を再認識し、再構築することで「あきたのたから=秋田醸しまつり」が地域ブランドとして更に地域に根付くことを目指して参ります。

五、「あきた力」活用があきたの未来を創る

人口減少や高齢化により、県内における消費市場は減少すると懸念されています。交流人口を積極的に増やし、外貨を獲得することが求められています。あきたには、ロシア極東地域の港に本州日本海側で一番近い港が存在します。国も日本海シーアンドレール構想を検討しています。あきたに日本とロシアを結ぶハブ的な拠点が実現すれば、あきたの経済、文化の活性化につながると期待されています。官で行える力、民だからこそ出来る力が存在します。官と民が同じ目的、方向性を持ち協働し、力を合わせていくことが必要と考えます。官民一体となり、個の運動を全て協働し、展開する力の向上を目指すことで揺るぎない根太いあきたを創って参ります。

六、第45回秋田ブロック大会主管

公益社団法人日本青年会議所東北地区秋田ブロック協議会2015年度第45回秋田ブロック大会を主管いたします。45年間、切磋琢磨してきた志同じくする県内の仲間に対し、感謝の気持ちで我々の住み暮らすあきたの魅力を存分に発信していきます。また今大会を成功に導くことが、今後の運動への活力、団結力向上に繋がると確信しています。

結びに

私は「人の喜びも悲しみも分かる人になれ」と言われ育てられました。相手の気持ちを理解出来たならば、尊重することが出来たのならば、地域は自然と良くなって行くのではないのでしょうか。世の中には多くの人が存在し、多くの考え方、価値観が存在します。公益社団法人秋田青年会議所は「奉仕・修練・友情」のもと、志を同じうする者の集団であります。我々ならば明るい豊かな社会実現は容易ではないのでしょうか。メンバーが益々同志的結合を固くし、友情を温め、相互の信頼と切磋琢磨によって、揺るぎない根太いあきた実現に向け邁進することを誓います。